


スイング売買の心得

リチャード・D・ワイコフ

 PanRolling Library

【免責事項】

この本で示してある方法や技術、指標が利益を生む、あるいは損失につながることはないかと仮定してはなりません。過去の結果は必ずしも将来の結果を示すものではありません。この本の実例は、教育的な目的でのみ用いられるものであり、この本に書かれた手法・戦略による売買を勧めるものではありません。

序文

本書は、米国株市場でバブルが崩壊した直後の「失われた一九三〇年代」初めにリチャード・D・ワイコフによって出版された雑誌「ストックマーケットテクニク」の記事を抜粋したものである。一九三〇年代の著作が今でも新鮮さを失うことなく、多くの人々に読み継がれてきた事実こそが、本書の価値を物語っている。

著者のワイコフは、ジェシー・リバモアやダグラス・テイラーとほぼ同時代に生きたトレーダーだ。株式の長期保有を目的とする「株式投資家」ではなく、相場の短期的変動から収益の蓄積を狙う、まぎれもない「株式トレーダー」である（ちなみに一九二九年の高値から三三年の安値まで、ダウ平均は八七%ほど暴落している。そして暴落前の水準に回復するまで約二〇年かかった）。短期トレーダーとして日本でもファンの多いリンダ・ラシュキは、ワイコフに大きな影響を受けたことでも有名だ。

ワイコフの哲学は、本書の言葉からも強く伝わってくる。

「相場の動きを読み取る方法を知っていれば、毎日ひっきりなしに世界中のファンダメンタルズのデータを送ってもらうのに比べて、ずっと大きく稼ぐことができるし、その稼ぎを失うこともない。というのも、あなたを含めて何百万人もの人が毎日、新聞やニュースティッカーから統計データを受け取っているが、それが及ぼすすべての影響は相場のテープの上に集約されているのだから」

名言だ。すべての情報が価格に織り込まれていくという本質を言い当てている。

ワイコフの相場への鋭い洞察は、リバモアの『欲望と幻想の市場』（エドウィン・ルフエーブル著、東洋経済新報社）に通じるものがある。小手先のテクニクを紹介しているのではなく、自身の血肉である「相場に取り組む姿勢」や「相場哲学」について語られているからだ。だからこそ私たちに多くの示唆を与えてくれる。

内容は現代でも十分に通用する含蓄に富んだものが多く、読んでいて常に自省や発見があり、唸らずにはいられない。マーケットがこの世にあるかぎり「本物」の持つ価値は、八〇年前どころか、八カ月前、八時間前に書かれたと思えると言っても過言ではないほど普遍的だ。

本書はどこからでも読める。順序に関係なく、どこから読んでもいい。ただ、トレードの初学者には、耳寄りな噂や秘密情報をあてにせず、値動きそのものを分析する姿勢について、とくに集中して読んでもらいたい。

「合理的にリスクを限定しないでトレードするのは、ベルトもサスペンダーもなしにズボンをはくのと同じだ」

初学者はこのアドバイスを肝に銘じてトレードに臨んでほしい。

パンローリング株式会社アナリスト 住住啓一

もくじ

序文

短信・・・・・・・・・・ 11

楽しい経済的自殺の方法・・・・・・・・・・ 21

株式相場における需要と供給の法則の働き・・・・・・・・・・ 22

オーバーン社株の激しい値動きを予測する・・・・・・・・・・ 26

トレードの方法・・・・・・・・・・ 30

I. 過去のやり方

II. 最新の科学的方法

編集だより——なぜ本誌はアドバイスを提供しないか・・・・・・・・・・ 37

短信・・・・・・・・・・ 39

岐路に立つ大衆・・・・・・・・・・ 47

ノウハウ・・・・・・・・・・ 64

買った理由・・・・・・・・・・ 65

チャートとダウ理論・・・・・・・・・・ 67

融通のきかない方法と柔軟な方法・・・・・・・・・・ 71

インサイド情報について・・・・・・・・・・ 74

ウォール街の誤信・・・・・・・・・・ 76

その一「金庫にしまった株のことが忘れられる」

ウォールストリート動物園・・・・・・・・・・ 77

編集だより——本誌の出版の目的・・・・・・・・・・ 78

ダウ理論のさらなる発展・・・・・・・・・・ 80

エッセイ

転換点

価値の判断

最良の銘柄選択

なほなる発展

ティックカーテープで相場の転換を予測する・・・・・・・・・・ 89

テクニシャンはどのように株式相場を判断するか・・・・・・・・・・ 92

なぜ統計データを研究するのか	98
短信	100
ディクソン・G・ワットが語る芸術としての投機	106
一・ 独立独歩	
二・ 判断力	
三・ 勇氣	
四・ 慎重さ	
五・ 柔軟性	
絶対的な規則	
条件的な規則	
編集日より——過去の予測	117
探りと反応によって相場を判断する	119
ウォール街の誤信	129
その二「成功するには十分な資金が必要」	134
ダウ理論を打破する	134
新聞の金融欄の本当の価値	142
さらにインサイド情報について	148
ジェイ・グールドの哲学	152
編集日より——どうすればこの相場が持ち直すか	156
四年半の間になされたアドバイス機関の予測の成績	160
自分の投資ファンドを運営する	173
年金——100%の安全	177
転換点を見抜く	181
さらにインサイド情報について	184
あるトレーダーからの投書	
ダニエル・ドルーの教え	185
ポイント・アンド・フィギュア・チャート	189
ニュースを過大評価してはいけない	192
流れとしての株価	
短信	195

なぜストップ注文が執行されてしまうのか……………199

追証の請求に対して現金を差し入れてはいけない——損失を防ぐ三重の防衛線……………202

スイングトレードで長期保有よりも多くの利益を上げる……………204

ブローカーに頼ってはいけない……………208

ティックカーテープに基づいてトレードをする……………210

テクニシャンがファンダメンタリストに論争を挑む……………213

最良の銘柄——資金と目的と性格に合わせて選ぶ……………220

銀行家はチャートに対して弱気……………222

中立ポジションの大切さ……………226

相場の達人が語る……………229

有名な相場師たちの哲学……………231

読者からの投書……………233

編集だより——なぜファンダメンタルズは役に立たないのか……………240

付録 ストックマーケットテクニクナンバー2より抜粋……………243

短信

- お金はなくしたところを探せ。
- 損失は判断の誤りに対する罰である。
- 死んだ馬に乗っていると云うのかい。それなら降りて、生きてる馬に乗り換えな。
- 迷ったら手を出すな。手を出して迷いはじめたら、手仕舞え。
- インサイダーが部外者のようにトレードしたら、たちまち部外者になってしまっ。
- 株の診断が完了したとたん、それはトレードの命令へと変わる。

● レッスンも受けずに、チャンピオンのジーン・タニーとボクシングをしようというのかい。

● 数ポイント離してストップ注文（逆指値）を置くのは、はずれた場合の大損失に備えた保険である。

● トレードするためではなく、稼ぐために相場を張れ。

● 暴落や恐慌のときのバグゲン株を買う資金の入手法——暴騰時に売り切ること。

● 株式相場で本当に大事なファンダメンタルな要因は、需要と供給の法則だけだ。

● リスクを限定する方法と売り抜ける時機を知っていたら、あなたはここ数年間、そんなに多くのお金を失わずに済んだはずだ。

● ゲームの勝利はまだ先だと自覚できたら、ゲームに勝利する方法を身につける第一歩を踏み出したことになる。

● 一回の間違ったトレードをするよりは、一週間でも一月でも相場から離れていたほうがいい。休んでいれば判断力も向上する。

● トレード成功の秘訣は、損失を計画的に管理して、その損失を上回る利益を確保することである。

● 投資ポジションを取っていると、売りに回るべき決断が大いに鈍る。

● 大多数の人が自分のビジネスで稼いだお金を他人のビジネスで失う。それなら、トレードを自分のビジネスにしようじゃないか。

●相場が上がるか下がるか聞かれたとき、故J・P・モルガンはこう答えた。「君、相場は変動するものだよ」

●リバモアはかつて私にこう言った。「私は危険の限界まで買いや売りのポジションを崩さない。危険が本当にやってきたら、ポジションを閉じてほんの少しだけ損失を出す」

●ほとんどの人の株式売買は美にいい加減だ。そんなふうにグラント將軍が作戦を立てたとしたら、勝利の数はいくつに減ってしまうだろうか。

●男らしくしようではないか。株で損をしたら、それはゲームが上手にできなかったからだと認めよう。なぜ、できなかったか。それはゲームを知らなかったからだ。

●どんなピアノでもきちんと正しい鍵盤を叩けば、ベーターベンのソナタが弾ける。相場でも、きちんとプレーができるようになれば、だれでもウォール街で大金持ちになれる。

●相場を研究する場所は仕事が終わったあとの自宅だ。必要な道具は夕刊だけ。ただし、経済ニュースは飛ばして、株価と出来高だけを見なさい。

●どんな形であれ、配当がつくのは結構なことだ。しかし、株式市場には、配当よりももっと稼げる方法がいろいろある。

●株で五〇ポイントや一〇〇ポイントの損失を防ぐ方法——ストップ注文（逆指値）を使ってリスクを二二三ポイントに限定しなさい。そのために、どっやあって、いついつにストップを置くのかを学びなさい。

●私は欲望を持った者を求めている。その欲望はお金に対するものでなくてはならない。また、自分の経済状態に不満を抱いていて、それを何とかしようと熱望している者でなくてはならない。

●ブローカーは、安くていかがわしい株券の分厚い束をばらばらとめくって見たあとで、持ち主に向かってこう言った。「貸金庫に預けるまでもないですね。犬小屋をひとつ買って、子犬のようにそこに入れておいたらどうですか」

●過去のあなたのやり方では、高値を買って安値を売ることにってしまった。そのやり方を捨ててしまえば、安値から高値、そしてまた安値へと動く大きなスイングから利益を上げられる。

●相場のテクニカル面について完璧に理解できなくても、継続的な株取引で儲けられるなどと言いつ張るのは、野球に投手力が関係ないと言っているのと同じだ。

●三人の男がウォール街にやってきた。最初の男はどの株を買うのが一番いいか知っていた。次にやってきた男はなぜその株がいいか知っていた。最後の男はその両方とも知らなかったが、いつ買ったらいいかは知っていた。最後の男が最も多くのお金を稼いだ。

●投機で成功するには予測が必要である。投機家というものは、未来に起こりそうなことを推測しなくてはならないのだ。しかし、大多数の人が株を買う理由にあげるののは、一株当たりの収益がとても大きいとか、配当が四ドルもあるとか、会社の事業が順調だとかいうことだ。これらは現在の視点ではない。

●ブローカーのオフィスから遠く離れていても、電話や電報や手紙や伝令で連絡が取れるのなら、株取引で成功できる。私は大西洋の真ん中で、ヨーロッパから戻る途中のひとりの男に会った。彼はこう言った。「私はメキシコ在住で、あなたが記事にしたアドバイスを一〇日後に手にします。それを見て、私はニューヨークに注文を出します。こんなハンディキャップがあっても、おかげで私は儲けています。」

●ウォール街でひと財産作り、しかも、それを失うことのなかった有名な相場師がこう語ったそうだ。「私は、他人が私にしてほしいと思っただけだ。株がどんな値下がりして、彼らがどんな値段でも売り払いたいと、必死になって買い手を求め

ていたときに、私は希望どおりに買ってあげた。また、どんな高い値段でも株を買い
たいと請われたときは、「どうぞといって私の株を買わせてあげた」——アメリカン・マー
キュリー誌

●科学的な売買法を知っていれば、株のトレードは理想的なビジネスである。仕事時間
は一〇時から三時、ただし土曜日は一〇時から一二時。気分によっては休んでもいい。
ウィークエンドはたっぷり、休暇はじゅっちゅつとれる。何カ月にも及ぶ海外旅行。
出勤、退社は気の向くまま。経費ゼロ。回僚はいない。部下もない。上司もない。
仕事は自分のため。やり方が分かれば、銀行口座は増えるいっぽう。暇な時間に家で
学べる。

●ウィーバーとフィールドの口ぐせはこうだ。「シンジケートというのは全身くまなく金
にとり囲まれた人間の集まりだ」。

投資信託も少なくとも最初はそういう状態にある。しかし、その経営陣が相場のテク
ニカルな位置にきちんと注意を払わなければ、一般トレーダーと同じ失敗に陥る。運
転資金がどんなに多くても、取締役がどんなに評判が良くても、相場の正しい判断は
また別物なのだ。

●一九二九年、相場が頂点にあったとき、ある投資信託が株式相場のテクニクスのプロ
を雇っていた。その男が経営陣に、今が持ち株全部を売る時機ですと言ったところ、「わ
れわれは投資家なんだ」と言って彼をクビにした。

●株が下落して、次の値上がり前の底練り状態にあるときは、その株を他人に持って
いてもらおう。あなたは、それが値上がりする寸前に手に入れればいい。

●闇の証券業者は、大衆が小さく儲けて大きく損することと金を稼ぐ。つまり、闇の証券
業者はどうしても小さく損して大きく儲けることになる。このパターンは、最初のプロ
カーがウォール街の端にあるススカケの木の下に集まったときから崩れたことがない。

●一般投資家が一番有望な銘柄を決めるには、株の動きを常に指標的な銘柄と比べながら分析すること、主要な銘柄すべてについて相対的変動をすっかり頭のなかに入れておくことが必要である。最上のチャンスをつかむということは、結局、選ぶ方法と対象と時機を知ることに対応する。

●株を買うならこれにかぎるといふ友人の情報なげ鵜呑みにするのか。彼はニューヨーク証券取引所の何百という上場株式全部と比べてそう言っているのか。売るべき時機になったら、わざわざやってきてそれを教えてくれるのか。そうだとしても、間違いなくそれが一番の売り場なのか。こういうことは、全部自分ひとりでするようになってほうがよくないか。そうすれば、友人の判断が100%正しくなくても、自分の判断力を磨いて、それを100%に近づけることができるのだから。

楽しい経済的自殺の方法

- ① 株をどこかにしまって忘れてしまおう
- ② 三ポイントの利益を上げて、三〇ポイントの損をする
- ③ リスクを限定しないでトレードをする
- ④ わずかの委託保証金で信用買いをする
- ⑤ トレードは現物買いだけにする

株式相場における需要と供給の法則の働き

ある人が何をしようとしているのか、あるいはある状況のなかでどのように振る舞うのかということは、その人の発言や行動や習慣や性格を見れば分かる。それと同じように、株式相場の先行きはその動きを見れば分かる。

この事實は、ウォール街にあふれている無数のニュース記事、うわさ、秘密情報、推測、ヤマ勘を見れば理解できるだろう。これらは、ニュースティッカー、情報メモ、新聞、ブローカーの相場通信、電話、電報、口コミによって広くばらまかれている。

こうしたものすべてが、トレーダーや投資家に影響を及ぼす。その影響の度合いは、単に株式相場や個々の銘柄に対して、積極的あるいは消極的な気持ちをかきたてるにとどまる場合もあるが、なかにはそれに動かされて、売りや買いの注文を出す者もいる。

この一步を踏み出すことによって、つまり、現実には売買することによって、利益に対する各人の希望が相場の記録に刻まれることになる。あるいは、野心、欲望

損失への恐怖が刻まれると言ってもよい。ある人がある銘柄を何株か買ったとすれば、その購入分だけ少し株価を押し上げる方向に影響を及ぼす。逆に、売ったのなら、ちょうどその分だけ株価を押し下げる。

注文が五〇〇株、一万株の単位ならその影響はより大きくなる。その株の需要、つまり「押し上げ圧力」がかなり強まって、株価を一ドル、二ドル、三ドルと押し上げる原動力となる。どのくらいになるのかは、そのレベルでの売り株数によって決まる抵抗力次第だ。これももし一〇〇株単位の取引なら、その買い付けによって株価を上昇に向かわせる力は小さい。また一〇株や二〇株の端株の買い付けであれば、すぐに影響が現れることはない。それを売った端株業者が一〇〇株以上の株を最終的に買い戻して、はじめてその押し上げ圧力が市場に現れることになる。

もし、その注文が売りだったなら、株数が一〇株でも一〇〇株でも一万株でも株価の引き下げの効果を持つ。その場合の効果は、売る株数に影響を受けるだけでなく、むしろ、売却時にその株の需要がどの程度あるかによって大きく左右される。一定の価格帯に買い手がほとんどいない、いわゆる「板の薄い」状態で、一〇〇〇

株もの株を市場で売るようにブローカーに指示を出した場合、価格が半ポイントから三ポイントほど下落しないと、その株を引き取ってくれる買い手は見つからないだろう。

しかし、注文の価格に一〇〇〇株以上の需要があれば、ブローカーは、まず間違はなくその価格で全株を売ることができる。この取引が大引けか大引け間際に行われたとすれば、ティックカーテープの記録を見た人は、銘柄にもよるが、それを相場の高さの現れと解釈するはずだ。

非常に大口の投資家が、ある銘柄を二万株急いで買いたいと考えたとする。その場合に、直近の価格から五ポイント上までの範囲にそれに見合うだけの売り注文がないとき——例えば一万か一万五〇〇〇株しか売り物がなかったとすれば、投資家の要求を実現するためには、おそらく六ポイントか七ポイント、あるいは一〇ポイントほど買値を上げざるを得ない。このように、買いの需要に対する供給が少なく、数ポイント価格を上げないと注文が通らないようなときにも、ティックカーテープの読み手は「相場は強い」と考えるだろう。これは、需要が供給をしのいでいる

状態である。

以上は、株式相場において需要と供給の法則がどのように働くかを単純な例で説明したものである。しかし、もちろん実際に株式相場の先行きをそれ自体の動きによって判断するには、何百というさまざまな面を考えなくてはならない。

この法則は、株式相場のあらゆる動きについて当てはまり、過去何百年の間、無数の人を悩ませてきた問題に真の解決を与えてくれる。現在もなお、それを理解できる人や使いこなせる人はほとんどいない。

しかし、日々のほんの一、二ポイントの値動きから週間、月間、年間の動きに至るまで、株式相場の変動のあらゆる局面で、絶えずこの原理が働いている。実際のところ、上昇と下落を繰り返す市場の流れのどこをとってみても、この法則を裏づける証拠が見つかるのである。